



「インドに続く成長フロンティア」 アフリカ（タンザニア・ケニア）視察報告書

主な視察先・活動内容

1. TANJA農園・近隣コミュニティの視察&ブリーフィング（タンザニア）

TANJA Corporation Ltd./ OS Trading & Investments Pte. Ltd. の溝口様より、TANJA農園開園の背景と取り組みについてお話いただいた。ンゴロンゴロ国立自然保護区に隣接し、1920年代にドイツ系入植者が開拓を行った合計約1,760haにも及ぶコーヒー農園を、2023年に日系企業であるTANJA社が購入。灌漑・溜め池等による効率的な水資源の活用を行い、コーヒー豆の収穫量・質の向上を実現させた取り組みを実際に見せていただいた。

また社会課題・貧困が残るアフリカ農村部において、「Smart Village Project」による持続的なウェルビーイングの構築に取り組まれているということで、TANJA Corporation Ltd 小郷様による案内の下、農園近郊の村を訪問し、プロジェクトの一つである「改良型かまど」の普及活動を視察した。この「改良型かまど」導入により、年間1万～2万トンのCO2が削減できる見込みであり、カーボンクレジット承認のために政府・関係機関に承認申請中。



2. TOPPANデジタル株式会社 ブリーフィング（タンザニア）

OS Trading & Investments Pte. Ltd. と業務提携を行い、現地における「Smart Village Project」を進めているTOPPANデジタル株式会社の岩本様より、同社のアフリカ事業についてご説明いただいた。具体的には、デジタル化（DX）・サステナブル化（SX）を軸に、①カーボンクレジット獲得 ②プラスチック汚染対策 ③現地特産品開発 ④ICT・デジタルBPOオフショア ⑤スマートアグリ ⑥スマートシティ（防災DX）⑦SDGs：コミュニティ支援 ⑧2024物流問題対策 等の取り組みを行っている。



3. 日本企業との交流会（タンザニア）

同時期にTANJA農園訪問中の日本企業の皆様との夕食交流会を実施。TANJA農園関係者に加え、日本で中高年女性向けに圧倒的な販売数を誇る雑誌の発行企業、「農家の所得向上に貢献する」を理念に農業をサポートする企業等、個性豊かな企業代表者の皆様と交流を行い、知見を深めた。



4. 在ケニア日本国大使館との意見交換会（ケニア）

ケニア入国後、初の活動として、在ケニア日本国大使館より次席の荻原氏と一等書記官の丸岡氏をお招きし、夕食とともに意見交換会を開催した。ケニアの事業環境、現地の治安・政治・規制・消費動向・産業構造・人材/教育・医療/保険・インフラ・金融/デジタル決済・近隣諸国関係・日系/外国企業の動向等について、横断的に現状をヒアリングさせていただいた後、日系企業として新たな事業創出・展開の可能性がある領域について議論を交わした。翌日以降の現地視察に繋がる、大変有意義な機会となった。



5. JETROナイロビ事務所によるブリーフィング（ケニア）

JETROナイロビ事務所の松野氏より、ケニア概要についてブリーフィングを受けた。データに基づく分析ならびに客観的な解説によって、ケニアのビジネス環境をマクロな視点から捉えるのに役立った。その後の質疑応答では、VISA・越境業務、汚職対策、アフリカ内他国との比較等、踏み込んだ質問が視察団より投げかけられたが、いずれも丁寧に回答をいただき、ケニアという国への理解を深めることができた。



6. 在ナイロビ商工会との意見交換会（ケニア）

JETROナイロビ事務所による取り計らいにより、ナイロビ商工会との昼食ならびに意見交換会を開催した。ナイロビ商工会からは会長の河尻氏（欧州三井物産）を始め、幹事の清水氏（CC Innovation Africa）・近野氏（豊田通商）・牧本氏（JICA）、会員の大山氏（商船三井）・梅田氏（TMI総合法律事務所）・井上氏（ダイキン工業）、加えて事務局を兼務するJETROの松野氏の8名に参加いただき、現地ケニア料理を味わいつつ、意見交換を行った。在ケニア印僑の方々やインド本国の方々の関係性や、各社の市場開拓・経営状況など、ビジネス関連の話だけではなく、現地での教育環境や食事情などトピックは多岐に渡り、和気藹々とした雰囲気の中で、率直な意見が飛び交った。



7. Nairobi Garage視察・CC Innovation Africaによる ブリーフィング（ケニア）

コーワーキングスペース Nairobi Garageにて、同スペース内にオフィスを構えるCC Innovation Africa（北國銀行）の清水氏より、CC Innovation Africaの取り組みについてお話いただいた。同社は2024年6月に日系銀行グループ唯一のアフリカ現地法人として開設され、以降アフリカに進出する日系企業や関連する非日系企業、革新的なビジネスを開発するスタートアップ企業など、投融資とコンサルティングを中心に事業を展開し、多くの企業の成長を支援している。



8. BasiGo視察（ケニア）

豊田通商株式会社とグループ会社であるCFAO SAS社のご尽力により、BasiGo社の電気バス事業における主要充電・整備拠点の一つBasiGo Depot - Embakasiの視察を行った。当日はBasiGoのCo-Founder & CEOであるJit Bhattacharya氏が主に説明を担当され、CFAO SAS社 MDの和田氏とProject Managerの平手氏、投資会社Novastar Directorの山内氏にも同席ならびに補足説明をいただいた。

2021年にケニアで設立されたBasiGo社は、アフリカのカーボンニュートラルおよび公共交通事業者の待遇改善を目指し、電動バスの輸入・販売・リース、充電ステーションなどの電動バス事業を展開している。現在はケニアで76台、ルワンダで34台の合計110台のバスが運行されており、2027年末までに1,000台を目指す。政府からの財政支援はなく、カーボンクレジットも販売認証が下りた一方で、それに依存せずとも基幹事業は成り立っているとのこと。

今回はケニア国内で現地組立された新しい電気バスにも実際に乗車し、電気バス向け急速充電器も間近で見せていただいた。ケニア国内で日系企業が関わる事業の成功事例として視察団からの注目度も高く、質疑応答も活発に行われた。



9. Nairobi Gate Industrial Park SEZ 視察（ケニア）

最終日、東アフリカ初の完全統合型税関管理区域を有する特別経済区（SEZ）であるNairobi Gate Industrial Park SEZの視察を行い、開発企業IMPACT社のManaging DirectorであるDean Shillaw氏より、経済区の開発背景や経緯等についてブリーフィングを受けた。同経済区は、元々南アフリカで建設業として創業したIMPACT社が、港湾や道路、鉄道による物流ネットワークの利便性、労働力、電力および水道のコスト構造、さらに地域のゲートウェイとしての役割を期待し、ケニア進出を決めたものの、実際に経験された7年間の苦難の道のりについて、淡々と実直に語られたのが印象的であった。

その後、テナントである人道支援団体のICRC/赤十字社、鉱山・水処理・産業薬品を扱うNowata社、医療機器・医薬品・ラボ機器等の提供を行うAMEX社、パン製造業のPRO BEKERY社等の倉庫を実際に視察させていただいた。どのテナントも好意的に出迎えて下さり、同経済区を利用するメリットとして、関税および付加価値税の免除やスムーズな保税業務、賃料に見合ったクオリティの高い施設とサービス等を挙げていたことを興味深く感じた。



視察団名簿

1	会頭	橋本 和俊	TOSHIBA Asia Pacific Pte Ltd
2	副会頭	江口 大二郎	Mitsui Fudosan (Asia) Pte. Ltd.
3	副会頭	富井 淳司	Fujitsu ASIA Pte Ltd
4	理事	西田 知之	Mitsubishi Corporation, Singapore Branch
5	理事	廣瀬 貴晴	Toray International Singapore Pte Ltd
6	会員	椿 進	AAIC Holdings Pte Ltd
7	会員	石田 宏樹	AAIC Holdings Pte Ltd
8	会員	久保田 博通	EBARA Engineering Singapore Pte Ltd
9	会員	山本 冠	Kirin Holdings Singapore Pte. Ltd.
10	会員	宮崎 敬子	Shimizu corporation
11	事務局	梁 瑜	JCCI
12	事務局	後藤 志帆	JCCI

参加者からの主なご感想

- ◆タンザニアの北部、キリマンジャロの麓にあるArushaから車で約2時間、人口約1万人のKaratu。埃の舞う乾季の終わりの時期に、標高1700mにあるコーヒー農園、人々の生活、Ngorongoroのサファリ。そこから約10時間、400kmのバス移動、タンザニアからケニアへのone point border。映画Out Of Africaの舞台であるNairobiでは小雨季、駐在員の方々のお話。見るもの、聞くもの、食べるもの、すべてが貴重な体験でした。
- ◆現地の日本人駐在員が生き生きとアフリカライフを楽しまれているのが印象的であり、大変良い刺激を受けました。
- ◆アフリカへの挑戦での光と影を、実ビジネスを推進されている方から実体験ベースで聞けて大変有意義でした。人生観が変わりました。

◆会頭、事務局の皆様の素晴らしいお気遣い、ご準備のおかげで、素晴らしい経験をさせていただきました。また、参加者皆様との絆を深める事が出来ました。本当に有難うございました。

◆渡航前は治安や気候に対する不安があったが、実際に訪れてみると想像以上に快適で、懸念は払しょくされた。特にケニア・ナイロビは活気に満ちた都市で、日本人の若い女性も多く働いており、安全面に最低限の注意を払えば、日常生活も快適に送れると感じた。また、アフリカは「インドの延長線上で攻める」という考え方が必ずしも通用しないことを理解できた点も大きな収穫だった。タンザニアを含め、両国とも日本やシンガポールとは大きく異なる事業環境であり、事業運営には途上国特有の困難があるが、それ以上に今後の発展が期待できる、夢のある市場であることを実感した。

◆今回は未開拓の地アフリカへの視察訪問、日系連合での合同訪問ということもあり、通常単独では行けない場所への訪問や、貴重な面談の数々、とても濃密で有意義な時間を過ごすことができた。また、ナイロビでは想像を絶する現在の発展事情などを目の当たりにし、そのポテンシャルを感じた。今後の事業施策にも反映し、スピード感を持って進めて行きたいと、改めて思った次第です。

◆アフリカの奥行きと多様さを実感できた。TANJA農園様とBasiGo様の訪問では、ビジネスを通じた社会課題解決のアプローチが進んでいること、それを支える様々な投資プラットフォームが形成されつつあることを理解した。個人的にはインドRHQIによるアフリカ展開というコンセプトに関心があったので、ダイキン様の苦労話が非常に参考になった。視察団メンバーと道中たくさんのお話をさせていただき、海外での成長を志す日本企業同士のネットワークを拡充できたことも大きな収穫であった。

◆エジプトを除けば初めてのアフリカ訪問でしたが、大変貴重な経験をさせていただきました。タンザニアの農園見学では現地オペレーションの大変さが想像を遥かに超えたもので、外資の資本誘致と収益化の難しさと同時にビジネススケールの大きさ、今後の大きな成長可能性も感じました。ンゴロンゴロ国立公園でのサファリ体験はまさに圧巻で、是非また家族と訪れたいと思いました。ケニアでのベンチャー企業BasiGo訪問ではカーボンクレジットに依存しないビジネス戦略の成功事例で大変勉強になりました。両国とも現地の日本人の皆様が、ローカルの生活の楽しさを生き生きと伝えてくださったのが印象的でした。旅程全体ではバス移動が多く、なかなか体力的にきついところがありましたが、宿泊場所や食事などは事務局の方の手厚い配慮により、快適に過ごすことができました。また各国ビザ手配は各自手配でしたので、個人参加会員には慣れてなければ難しいところもありました。全体的に大変素晴らしいアフリカ体験となり、参加して本当に良かったと感じています。来年度も是非、個人訪問は難しいが、将来経済的に重要性を増すような地域を選定して頂けたら幸いです。